青少協だより

平成 30 年 3 月 5 日発行　2017 年度　第 3 号
青少年育成協議会　魚 崎 支 部
支 部 長　谷川　智子

特集　宮崎県と神戸市の包括連携協定締結記念事業
「ワクワクどきどき船の旅」
11/24～26　神戸市 ⇔ 宮崎県日南市

11 月 24 日 19:10、神戸三宮フェリーターミナルから魚崎小学校の 5，6 年生 79 名が船中 2 泊 3 日の旅へ出発しました。出航と同時に見送りに来てくれたご家族へ船の甲板から一斉に紙テープを投げました。対岸には神戸の夜景がキラキラとし、船から岸壁へ虹色の滝がかかったかのようにきれいで、寒さを忘れて子どもたちと元気いっぱい手を振りました。

船の中では 1 つの船室に 10 人ずつの班で寝泊まりしました。夕食は、宮崎名物のチキン南蛮や炭火焼き地鶏なども食べられるバイキング形式でした。椅子が揺れ対策にすべて床にがっちり固定されていたのが、船ならではの食堂だと思いました。お風呂と食事を済ませて一息ついた後は、カフェテリアを借りて震災のことについて学ぶ時間もありました。少し難しい内容でしたが、一生懸命ノートをとる子もあり、真剣な顔で聞き入っていました。

翌朝、宮崎港に到着してからは、貸切バスに乗り換えて日南市へ向かいました。船中泊の醍醐味で夜更かしを楽しんだはずの子どもたちでしたが、朝から元気いっぱいで、深夜の見回りで寝ぼけ眼の大人たちをしり目に、わいわいがやがやとバスの旅も楽しみました。　小一時間ほどで日南市へ到着すると、飫肥小学校の 6 年生児童 27 名と先生方、ボランティアガイドの方たちのあたたかい笑顔に迎えていただきました。ここで両校の児童が 3 班に分かれ、ボランティアガイドさんに小村記念館、歴史資料館、松尾の丸を案内していただきました。飫肥小の子どもたちは人懐こく、自分たちの小学校が創立 144 年になること、お城の中に校舎があり、毎朝お城の 2 か所の門から通ってくること、石垣の中にハート型の石があることなどを、丁寧なことばで熱心におしえてくれました。途中で飫肥小の子どもたちは着付けのために一旦小学校へ移動し、魚小の子どもたちだけで記念館や資料館を見て回りました。うっかりスタンプ集めに夢中になり、時間がおしてしまうことになるのですが、優しいボランティアガイドさんは辛抱強くつきあってくださいました。

歓迎式では飫肥小の子どもたちに江戸時代から伝わる「泰平踊」を披露してもらいました。宝永 4 年（1707 年）に飫肥藩と薩摩藩が和解したことを祝って侍と町人が一緒に踊るようになったもので、飫肥小・中の児童が継承しているとのことでした。侍は重々しく、町人は軽快にと踊りが異なっていて、当時の身分のちがいからそうなったのだろうなぁと想像できて、とてもおもしろく拝見しました。お返しに、魚小の児童は心を込めて「しあわせ運べるように」を歌い、最後に記念の盾を交換して式が終了しました。

本丸跡の杉林の中で一緒にお弁当をいただいたあと、飫肥のみなさんに見送られ、バスは鵜戸神宮へ向かいました。青い海に鳥居の朱色が良く映えるこちらの神宮は、パワースポットとしても有名な場所だそうで、素焼きの運玉を海の上の亀石に向かって投げる「運玉投げ」に挑戦しました。飫肥城でのんびりした分、観光は駆け足で済ませ、次はサンメッセ日南です。

サンメッセ日南には、世界七不思議のひとつに上げられているイースター島のモアイ像を完全復刻した像 7 体が立っていました。それぞれのモアイ像に金運、恋愛運、学力運が上昇するジンクスがある、とおしえてもらった子どもたち、さてどのモアイをより熱心に触っていたでしょうか？

夕方に再び乗り込んだフェリーでは、前夜より慣れたせいか、少し羽目を外し始める子どもたち。消灯前の自由時間には、船内の自販機コーナーがアイスやカップヌードルを買う子で大にぎわいとなり、船室ではお菓子パーティが繰り広げられ、いつまでも楽しい夜が続いている様子でした。

翌 26 日、7:30 の定刻通りに船が神戸へ戻ると、朝早い時間から今か今かと帰りを待ちわびて下さっていたおうちの方の姿を見つけて、それまで眠たそうだった子どもたちが一瞬で、甘えたような、はにかむような、かわいい顔になったのが印象的でした。帰宅してから、船の旅のことで話がつきなかったことでしょう。素敵な出会いと楽しいことがぎゅっと凝縮された船中 2 泊の宮崎旅でした。

うおっこワーキングタウン　@魚崎児童館、魚崎地域福祉センター、東灘区民センター小ホール

12 月 2 日、魚崎に子どもたちだけの街が出現しました。1 年に 1 度の「うおっこワーキングタウン」です！魚崎児童館のあるあのピンクの建物の中では、外から見ただけでは想像もつかない、広大な子どもたちの世界が広がっていました。

子どもたちは、まず 2 階にあるハローワークで仕事を選びます。首尾よく仕事についた子は、それぞれの職場へ向かいます。仕事に就くまで空き時間がある子は、待っている間にゲームや買い物を楽しみます。青少協の受け持ちは 1 階の児童館遊戯室の一角で、パスケットとストラックアウトというゲームコーナーでした。「お仕事カード」を持ってやってきた子どもたちは、真剣な顔をして仕事の説明を受けそれぞれの持ち場につき、お客さんを待ちます。開店とともに次々とやってくるお客さん。料金を受け取る、ゲームの説明をする、商品を選んでもらい渡す、など、みんなで分担して働きます。小さなお客さんがくると、やさしくやり方をおしえてあげたり、客足が途切れると、大きな声で呼びこみをしたり、楽しそうにゲームのデモをすることで宣伝したりと、それぞれ工夫しながら働いていました。

真剣にお仕事探し中

1 階にはゲームコーナーのほか、放送局や郵便局、おもちゃ工作屋、自転車の交通安全を学ぶシミュレーターコーナーなどがありました。外に出ると、炭焼きパン屋さんが棒に巻き付けたパンを焼いていました。寒い中でしたが、自治会の方々が車の通りに目を光らせて子どもたちの安全をしっかり守ってくださっていました。2 階には食堂やベーカリー、銀行があり、婦人会さんが準備してくださったおにぎりや肉まん、「グルテン」、「まんまるぅ」協賛のパンや洋菓子など、おいしいものがいっぱいで大盛況でした。

凛々しい警察官たち

3 階の小ホールでは、福祉専門学校、環境学校、防災学校が開校し、車いす体験や防災、ゴミの分け方などを体験しながら学べるようになっていました。また雑貨屋＆だがし屋、交番、便利屋などもありました。とにかくどの階にいっても子どもであふれていて、その活気と興奮が「うおっこワーキングタウン」という 1 棟の建物の中いっぱいの子どもたちの社会をグングン元気にまわしていました。

パスケットコーナー

子どもたちに巻き込まれるように体を動かしているうちに、あっという間に終了の時刻となりました。子どもたちが帰ったあとは児童館の先生方を中心に、自治会、婦人会、PTA、中学生ボランティアたち、先生方と後片付けにとりかかりました。ここで初めて、この一日は土足で建物の中を行き来できるよう、館内にブルーシートが敷き詰められていたことに気が付きました。中学生たちがブルーシートに丹念に雑巾がけをしてくれる後ろから、二人一組でぐるぐる巻き取っていきました。前日の準備や後片付けだけでなく、半年も前から実行委員会をたちあげ、地域、学校、児童館、保護者が文字通り力を合わせて作り上げ開催しているのです。

今年度が 9 回目で、当初の参加者は 100 人くらいだったのを、毎年試行錯誤し改良しながら、少しずつ規模を大きくしてきたと児童館の先生よりお話しいただきました。今回参加した子どもの人数はなんと 633 人！元気いっぱいの小さな社会に元気をわけてもらい、魚崎の地域力に感動した一日でした。

車いすを体験

防災について学びます

青少年育成フォーラム　@六甲アイランド小学校

年に一度、青少協と東灘区が、他の模範となる行いのあった者や地域で奉仕活動を行った青少年（個人・団体）を地域の誇りとして讃え、表彰しています。2 月 24 日、区内の小中校長、警察、PTA 他関連団体、一般の保護者が多数見守る中、表彰式が開催されました。

今年は魚崎小学校 6 年生の光本紗菜さんが式次第表紙絵の最優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。東灘地区青少協会長からも「上手すぎる！」とお褒めの言葉を頂くほど、心温まる素敵な絵が表紙を飾りました。横谷校長先生もお祝いに来て、一緒に喜んでくださいました。

善行青少年表彰は、急病人や怪我人を助けた小中学生が受賞し、地域活動賞は、環境美化・地域活動の協力・高齢者や年少者とのふれあい等の活動をした個人・団体が受賞しました。また、いじめ防止広域キャンペーンでは、区内の中学校代表生徒によって取り組みや今後の決意が熱く発表されました。

第二部では、六甲アイランドのチームによる可愛くて格好良いパフォーマンス、六甲アイランド小学校有志による心地良い合唱、向洋中学校吹奏楽部による力強い演奏があり、会場を盛り上げました。「自分たちの街を住み良い素敵な街にしたい」という子どもたちの活動や一生懸命な姿に、大人が元気をもらったフォーラムとなりました。

青少協と東灘区は、今後も地域活動を通じて青少年の健全育成をサポートしていきたいと思いますので、活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

今後の主な予定

3 月 10 日（土）　うおっこボウリング大会
3 月 18 日（日）　親子クッキング
5 月 13 日（日）　イチゴ狩り

青少協では支部員を募集しています。活動は主に土曜・日曜・夜間です。
詳しくは下記メールアドレスまでお問合せください。
seishokyo.uozaki@gmail.com